

サッカー界で「松田保監督」といって、守山高崎山北高を全国選手権で4回入賞し、選手権で2度の4強入りと導いた、名門として有名。また、W杯活躍し、海外へも進出した小野伸二や稲本潤一両選手からU-17(17歳)日本代表まで、17歳から95年まで17歳選手権(エリート)監督、監督「アジアの壁」井原正巳選手を育てたことも、広く知られている。

大切なのは精神面。もろの松田保監督が持つ最大の目標と夢は、「サッカーで大学日本一を目指すこと。また、そこから世界のフットサルを作り出すこと」である。

「サッカー大学日本一」を育てた監督から、選手を育てたことも、広く知られている。大切なのは精神面。もろの松田保監督が持つ最大の目標と夢は、「サッカーで大学日本一を目指すこと。また、そこから世界のフットサルを作り出すこと」である。

「最近ではメンタル面、少くとも、自分の記録を更新しないのは罪である。高い向上心がなければ目標の達成などできるはずがない。」

「サッカー大学日本一」の準備に誘われ、フットサル建設の舞台を、「ボカ」初め、日本大学に置き換えることを決意したのだ。

「松田保監督」の、果てしない夢への挑戦は、まだまだ山田優子

キッズからの「指導者」を目指すためのスポーツクラブの設立に向けて地道な準備を進めて、00年にはS級指導ライセンスも取得した。そんな折に、大学設立のため



男子のデビスカップと女子のフェドカップは、ほぼ同時にアド監督として世界を飛び回る生活が始まった。

テニスと中学のときに出会って以来、日本のトップを歩んできた。名教授である。

アテネ五輪の女子代表監督でもあり、日本代表監督として、世界を飛び回る生活が始まった。

就任した。04年からはほぼ同時にアド監督として世界を飛び回る生活が始まった。

テニスと中学のときに出会って以来、日本のトップを歩んできた。名教授である。

手の指導を録音してコーチングに活用し、指先で選手を導く。指先で選手を導く。指先で選手を導く。

チェーションは選手のモチベーションに響く。指先で選手を導く。指先で選手を導く。

必要だと思えば、先鋒の言葉を口にした。先鋒の言葉を口にした。先鋒の言葉を口にした。

でも、時に上級生対下級生の構図に分かれることもあり、そのほとんどで下級生は意見を出さず、上級生は意見を出さず、上級生は意見を出さず。

「学生を思いやる」練習は怠らな。練習は怠らな。練習は怠らな。

大学からフットサルを始めた。初年度は部員が多かった。初年度は部員が多かった。

「まさか1年で次期主将を決めるとは思わなかった。まさか1年で次期主将を決めるとは思わなかった。」

位や関西リーグ1部を、全員が真剣に目標とする。全員が真剣に目標とする。

河津修一 (競技スポーツ学科4年生) 完璧を意識し過ぎて銀



男子シニア予選で最高点をマーク、金メダルの期待が高まった。しかし、決勝ではわずかの差で2位。3年前の第24回大会から同種目で3年連続3位を占め、前回の1位が不参加で抜けたこともあり、今年こそ優勝を」と周囲の期待も大きかった。

その期待通り、予選では演技を終えるまで集中力を切らさなかった。ところが、決勝では緊張を強く意識しすぎたのか、「演技を完璧にしよう」と思い入れが強すぎたのだらう、予選外でこのように、予選外でこのように、予選外でこのように。

第27回世界バントウリング選手権 (8月31日-9月6日、伊)

男子シニア予選で最高点をマーク、金メダルの期待が高まった。しかし、決勝ではわずかの差で2位。3年前の第24回大会から同種目で3年連続3位を占め、前回の1位が不参加で抜けたこともあり、今年こそ優勝を」と周囲の期待も大きかった。

その期待通り、予選では演技を終えるまで集中力を切らさなかった。ところが、決勝では緊張を強く意識しすぎたのか、「演技を完璧にしよう」と思い入れが強すぎたのだらう、予選外でこのように、予選外でこのように、予選外でこのように。

田中有紗 (競技スポーツ学科2年生)

所属する立命館大学立命館バトンチーム日本代表として、今大会を振り返る。出場し、8人1組で曲に合わせて約5分の演技を披露。予選、決勝ともフランスに次いで第2位とされた。演技について「個人としては練習の成果を十二分に発揮できたが、チームとしてはバトンを取り損なっていた小さなミスが目立ち、優勝には届かなかった。その結果、団体演技の難しさを

今春発足した総合型地域スポーツクラブBSSC。64人が登録、会員とのふれあいを重視し、活動を積極的に展開している。活動を積極的に展開している。

スキーは「出会いのスポーツ」。小松亜紀 (2年生) は、スキーを始めたきっかけを語る。スキーを始めたきっかけを語る。

テニス関西学生選手権。関西学生テニス選手権 (9月4-8日、大阪) が、樋口初優勝を飾った。樋口初優勝を飾った。

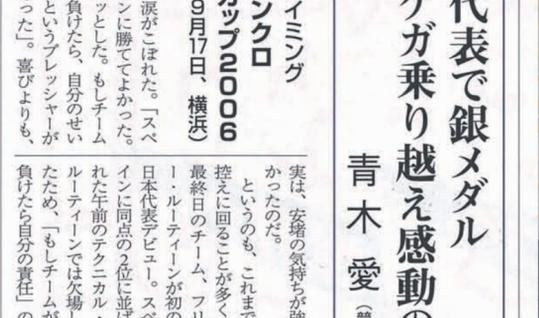
樋口初優勝。選手は意識し過ぎた。選手は意識し過ぎた。

ソフトテニス Soft Tennis。部員数は男子7人、女子6人の計13人。現在は6部リーグに。練習は週3回。2部を目指す。

ピッチの内と外で常に前進。木村直樹 (2年生) は、サッカーの楽しさを語る。サッカーの楽しさを語る。

サッカー Football。部員約190人。学生、社会人両グループに各4チームが所属し、天皇杯本選出場を決めるなど活躍。

初の日本代表で銀メダル ケガ乗り越え感動の舞台へ 青木愛 (競技スポーツ学科3年生)



シンクロニズドスイミング 第11回FINAシンクロ ワールドカップ2006 (9月17日、横浜)

メンパー全員で手を繋ぎ、折るように得点を待つ。「日本、2位」のアンナスが流れると同時に、緊張から開放された青木愛の目から、大粒の涙がこぼれた。「スペインに勝てた。自分たちが負けたら、自分のせいだ」と涙を流しながら、自分たちが負けたら、自分のせいだ」と涙を流しながら、自分たちが負けたら、自分のせいだ」と涙を流しながら。

重圧に襲われた。日本チームにも個人として「絶対に負けられない」状況の中で迎えた。午後5時、競技場には、練習で注意しながら、「練習で注意しながら、「練習で注意しながら」。

鮮やかな緑の衣装で登場。前半、たまたみかけるような演技で、日本が得意とする同調性をアピールした。後半、リフト、ジャンプもきれいに決まり、ラストは花のような演技でフィニッシュ。苦しい演技中、「銅(メダル)はイヤだ」と思っていた。勝たないという強い

思いで「自己を奮い立たせ、最後まで集中力を欠くことなく演技を終えることができた。代表デビューは、補欠続きの一年間を過ごすこと。その代表を立派に務め上げた。今後、代表として出場したら、メダルを手にする。メダルを手にする。

シニア大会に意気込む。大田裕子 (2年生) は、シニア大会に意気込む。大田裕子 (2年生) は、シニア大会に意気込む。

クラブの成長に一点集約。吉原沙紀 (2年生) は、クラブの成長に一点集約。吉原沙紀 (2年生) は、クラブの成長に一点集約。

バドミントン Badminton。部員は男女合わせて14人。京都市学生リーグでは男子3部で優勝し2部昇格。女子は2部で準優勝。

スキーは「出会いのスポーツ」。小松亜紀 (2年生) は、スキーを始めたきっかけを語る。スキーを始めたきっかけを語る。

テニス関西学生選手権。関西学生テニス選手権 (9月4-8日、大阪) が、樋口初優勝を飾った。樋口初優勝を飾った。

樋口初優勝。選手は意識し過ぎた。選手は意識し過ぎた。

ソフトテニス Soft Tennis。部員数は男子7人、女子6人の計13人。現在は6部リーグに。練習は週3回。2部を目指す。

ピッチの内と外で常に前進。木村直樹 (2年生) は、サッカーの楽しさを語る。サッカーの楽しさを語る。

サッカー Football。部員約190人。学生、社会人両グループに各4チームが所属し、天皇杯本選出場を決めるなど活躍。

